

FASF 第 13 回基準諮問会議を開催

2011年9月5日、財務会計基準機構（FASF）において、第13回基準諮問会議（議長 野崎邦夫住友化学(株)常務執行役員）を開催し、2つのテーマについて審議が行われた。審議の様子は以下のとおりである。

(1) 基準諮問会議運営にあたっての諸手続について（非公開）

定款に則り、野崎議長より、副議長の指名及び企業会計基準委員会の審議を傍聴することができる諮問委員の指名が行われた。

(2) 企業会計基準委員会（ASBJ）の最近の活動状況について

2011年2月3日に開催された前回の基準諮問会議以降のASBJの活動状況について、報告が行われた。

都 ASBJ 常勤委員より、国内基準の開発・整備に係る活動として、公表した会計基準等や会計基準全体の開発状況についての説明と、FASF 内に設置された「単体財務諸表に関する検討会議」からの報告書についての説明が行われた。また、プロジェクト計画表のホームページにおける表示に関して、今後、国際動向や市場関係者の意見も踏まえ、適切な時期に改めて公表を行う旨についての説明が行われた。さらに、国際会計基準審議会（IASB）や米国財務会計基準審議会（FASB）との定期的な協議の開催やコメントの提出を行い、IASB 等に対しての意見発信を随時行っていることや、国際的な会計基準開発への貢献として、アジア・オセアニア会計基準設定主体グループ（AOSSG）会議関連の活動、各国基準設定主体（NSS）会議への出席、IASB の円卓会議等へのサポート等についての説明が行われた。

ASBJ の最近の活動状況の説明の後に、委員より「「単体財務諸表に関する検討会議」報告書」に記載されている単体財務諸表における包括利益の単体財務諸表の取扱いについて、現在の検討状況についての質問があり、ASBJ から、同報告書に記載されている事項は優先順位を付けて検討を行っており、単体財務諸表における包括利益の取扱いについては、今後、議論を開始する予定であるという説明があった。

また、「開発費の取扱い」及び「のれんの償却」に関する今後の検討予定並びにそれらの論点に関する国際財務報告基準（IFRS）とのコンバージェンスの方向性についての委員からの質問に対し、ASBJ からは、今後、企業会計審議会の審議状況も踏まえて ASBJ での議論を行う旨、及び ASBJ での議論にあたっては、単体財務諸表については、「単体財務諸表に関する検討会議」における議論を十分斟酌して行うこととなるという説明があった。

さらに、委員より、ホームページにおいてプロジェクト計画表の表示をいったん中止したことにより、財務諸表作成者としては新会計基準の実務対応に向けた準備作業が難しくなると考えられる

が、いつ表示が再開されるのかという質問と、開発計画の立てられるプロジェクトがあれば、部分的に表示してはどうかという提案があったため、ASBJより、現状、表示再開の具体的な時期は示すことができないが、今後は、MOUに関するIASB/FASBの動向や企業会計審議会の議論を踏まえて、ASBJにおける開発計画を検討し直す予定である旨、また、表示再開までの間の市場関係者に対する状況報告については別途検討したいという説明があった。